

「こいの池のイヴニング」演出のポイント

ロバート・ウィルソンのアイデア

「こいの池のイヴニング」は壮大なヴィジュアルコンサートであり、そのメインテーマは「環境とのハーモニー」です。

この「生き物と自然の共存という精神」は、水中に半身を潜めていた巨大なスノーモンキーが、突然、世界を見つめるために現れ、高さ 15 メートルにそびえたつところに表現されています。

ロバート・ウィルソンは、ヴィジュアルイメージと音楽、詩情豊かな照明、池の表面に現れ消える人工フォグ（霧）のマジカルな演出、水上に浮かぶ巨大な動物たち、そして壮大なウォータースクリーンに映し出される素晴らしいヴィジョンに焦点をおいています。

この映像のコンサートは、「未来に向けての希望と幸せ」を願うメッセージであり、「自然と人間のハーモニー」は「愛・地球博の精神」です。「こいの池 - ナイトイベント」を観て、「私たちの過去のおこないから学び、明るい未来に結びつけることを学ぼう。」

ロバート・ウィルソンの作品には言葉は不要であり、ナレーションなどは行いません。

約 30 分間のショーの中では、様々な映像が次から次へと現れます。最新鋭の技術を駆使したプロローグにはじまり、4 部構成のショーが展開し、詩情豊かなファイナルをむかえます。他の惑星と調和しながら生きている地球、水と空気、人間と動物が創造される、人間によって作り出された偉大な建築物に代表される歴史と文明、そして最後に、雪空に鳩の群れが飛び、私たちの未来を象徴します。

スノーモンキー

巨大なスノーモンキーがこのショーの主演となります。スノーモンキーとは、日本の山間の温泉で湯治を楽しむサルです。2,500 のフォグノズルによって発生する霧に囲まれて、スノーモンキーは水中から魔法のように浮かび上がってきます。

この神聖にして巨大なモンキーは超軽量の繊維素材に色付けがしてあり、それに空気を注入することにより、水中より出現します。その一方で、その対照的な相棒となるのが、最も進んだ 3D 技術を駆使し、孔雀のしっぽのような形で流れる 30 メートルを超えるウォータースクリーンに映し出される「アニメモンキー」です。

ハル・ウィルナーと音楽

音楽を最も重要視するロバート・ウィルソンが今回、コラボレーションのパートナーに選んだのは、アメリカのミュージックシーンの大御所、サタディ・ナイト・ライブのプロデューサーであるハル・ウィルナーです。

イベントのデジタルシミュレーションを使用し、ハル・ウィルナーはビル・フリゼル、ラ

ルフ・カーニー、デイビット・クルター、エイヴンド・キング、本田ゆか、ケン・ノーデ
イン、そしてポップミュージックの新星ジョアンナ・ニューソンらを起用しました。

ティーンエイジャーボイスのジョアンナ・ニューソンは、ケルトハーブを使用し、作詞作
曲も行い、ライトモチーフな音楽を展開しています。サウンドトラックでは有名なオペラ、
30年代、40年代のコミックミュージックも含まれています。